



特集！

ヨコハマ西口アートプロジェクト



ヨコハマ西口アートプロジェクトとは？

横浜西口エリアの公共空間（橋上や公開空地）に常設の壁画（ミューラルアート）を制作することで、アートを通じて横浜西口エリアに親しんでいただくことや、環境美化・環境改善、街を鮮やかに彩ることを目的に、2023 年からスタート。2024 年には横浜市より屋外広告物の特例許可を受け、対象面積の 100%（前回 30%）に範囲を拡張して実施しました。

テーマは、「**エリアの文化と自然が育むサステナビリティ**」とし、3 組の壁画アーティストのコラボワークにより、ビビッドなカラーの花々やアートの持つ躍動感、エリアの持続性をイメージしたピアノマンのモチーフ等を色鮮やかな配色で制作。実際の壁画は、約 254 m²（前回 75 m²）の大型アート作品となりました。完成セレモニー＆お披露目会では、地元の横浜平沼高校吹奏楽部の演奏や、壁画アーティストによる仕上げの筆入れなどを行いました。また、このプロジェクトは「ミナトノアート 2024」との連携により実施しています。



interview

—— 3 組のアーティストに依頼した経緯について

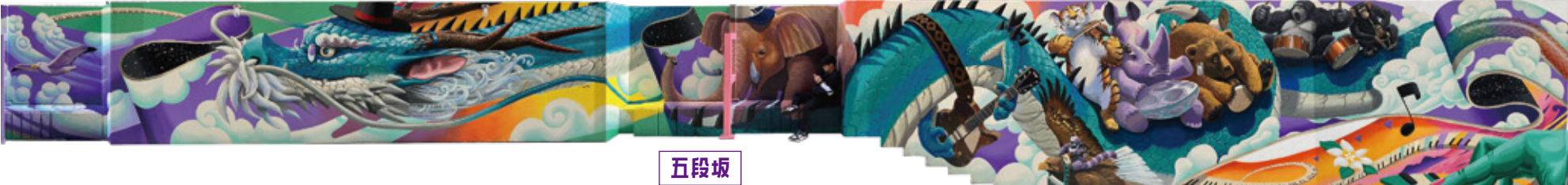
バル このプロジェクトのテーマが「音楽のまち横浜西口」や「GREEN×EXPO 2027 に向けて」という中で考えた時に、Gravityfree さんが描く世界観の持つ力・高橋さんが描く色々な動物の持つ力・ルイーゼさんが描く花や植物の持つ力、というのが融合したらとても良い作品になりそうだなとイメージが湧き、3 組にお声がけしました。全体ディレクションは Gravityfree さんをお願いをし、素晴らしいコラボレーションになったなと感じています。

オノ 私は平塚出身なのですが、中高生時代は横浜ビブレで買い物をしていたので、思い出の地に壁画が描けると聞き、なんて夢みたいな出来事だろうと思いました。制作中、友達も遊びに来てくれて、何世代にも渡ってやっぱりみんなの思い出の場所なんだと。五段坂（ビブレ横の裏路地）は、小さい時はちょっと危ないイメージもあったので、誰でも気軽に通りやすくなったのはとても嬉しい思います。

—— コラボでの制作はいかがでしたか？

Gravityfree (djow) Niigo ひろば（横浜ビブレ横の広場）は演奏する人がいたり、音楽ライブがあったりと、音楽のイベントをよく開催している印象がありました。また、多様性という意味ではこの 3 組で制作するにあたって、どの場所にどんな絵が来たらいいのかなということ は話しながら決めました。

(8g) 難しかったことは、今回の壁面が横長ということと、制作期間が 2 回に分かれていたことですね。1 回目の時は、2 回目があるかは未確定の状態だったので、とりあえず描きたいことを全て詰め込んだ状態で一旦完結させた覚えがあります。そこから対象壁面の全面に描けることになり、繋ぎ目はどうするのがいいのかなどを考えました。➤



—— 最後に・・・

Gravityfree 屋外広告物の条例なども全部乗り越えて、ここまで色々な人が関わった壁に絵を描かせてもらうことが初めてだったので、とても勉強になったし、光栄でした。

高橋 そういう意味では普段やってる壁画とはまたちょっと違った緊張感がありつつ、でも本当に楽しい現場だったので、感謝しかないです。➔

幸川橋

セレモニーの様子（2023.10.21）



制作 movie 公開中 ➤



メンバー紹介



Gravityfree (グラヴィティフリー) さん

djow (Toshio ono) と 8g (Eiji miyata) による 2 人組みの絵画作家。2 人での表現を追求し、互いに共鳴し合い浑然一体の "Gravityfree" らしい 1 つの世界観を作り出す。2002 年よりクラブイベントにて絵を描く遊びからライブイベントを始め、FUJI ROCK FESTIVAL を中心とする大型野外フェスに数多く出演している。



KensukeTakahashi (高橋 憲助) さん

確かな描写力・緻密なテクニック・現実を飛び越える自由な発想力と、あえて画風を決めずに描くスタイルで大型壁画を中心に、企業や行政へのアートワーク提供、ライブペインティングなどの活動をしている。近年では、大型壁画を川崎市役所本庁舎仮囲い・JR 横浜駅エキュートエディション・横浜・名古屋・神戸など全国各地で制作。



LuiseOno (オノ ルイーゼ) さん

成長をテーマに、植物の生い繁る様や波の流れ、自然界に溢れるエネルギーを有機的な線で表現している。現在は店舗内外への壁画や企業・行政とのコラボレーションを経て、らばーと湘南平塚や高知蔦屋書店、清福寺への壁画など、積極的に大型の壁画制作を行っている。

全体マネジメント

バル (佐藤 航) さん

ガーデングローブ合同会社

—— 1 回目 (2023) と 2 回目 (2024) との違いは？

Gravityfree (8g) 2 回目の時は、1 回目の壁面積 30% で表していた世界観を崩さずに拡張し、音楽の核の部分から宇宙や創造神につながるといった壮大なストーリーで全体をつなぐような意識でした。多様性という部分で、3 組の個性を乗せやすいようなフォーマットができたらいいなというアイデアで進めました。

高橋 Gravityfree さんのラフ画を見て、すごい世界観で面白いなと思いました。お互い昔から知っている仲なので、それぞれの作品への信頼もあり、やりやすかったです。

オノ 私は 2 回目の時が出産してすぐの現場復帰でもあり、ブランクを埋めることに悩みましたが、Gravityfree さんも高橋さんも大先輩なので、相談しながら進めました。その中で、今回多様性というキーワードが強くあり、1 回目の時にお二人がカモメを描いていたので、「今回私もカモメを描いたら三者三様のカモメがあって面白いかな」とか「同じカモメでも多様性が表現できているかな」と思い、メインとして描きました。

—— “まち × アート” について

バル 僕がこの活動をやっているのは、壁画の前でコミュニケーションが生まれていることですね。高校生や親子がアートを見て喋ったり、写真を撮りながら楽しそうにしていたり、あれってあだよねこうだよねと話したりしながら、スマホから自然と顔が上がっていて、それがすごくいいなと思います。➤



オノ やっぱり学生の時から見ていた場所に描かせていただき、過去の自分に自慢できるような仕事ことができました。さらに、壁画を見て横浜の小学校の先生から授業の依頼もあり、壁画を通して未来の子どもたちに夢のきっかけみたいなものを作れて、過去から未来までを全部つなげてくれる壁だなと。ありがたいなと思っています。



オノ 私は、制作中に中学生の女の子がずっと壁画を見ていたことがあり、声をかけると、家を出して困っていた子だったんです。話を聞いて、「何かあったらいつでもここに連絡して」と話していたら、お父さんがなんとか見つけてくれて無事に帰れたのですが、その子は絵を描いたり見たりが好きらしくて、お披露目会にも来てくれて、アートの力みたいなものを感じて、まちなかでアートをやる意味だなと思った経験です。

—— 作品の注目ポイントを教えてください！

Gravityfree (djow) 絵を見始める場所が、横浜駅側の幸川橋からと、Niigo ひろばからと、五段坂の途中から上がってくるところと、3 カ所の入口によって見方が変わるからおもしろいなと思います。見る方向による順番も意識しながら進めました。

バル 駅側は今までずっと白い壁だったので、顔になる部分として、「ヨコハマ西口アートプロジェクト」だぞ、という決意表明のアートを表現しました。

高橋 駅側からは意外とシンプルに始まって、そこから徐々に密度が濃くなって最後は Gravityfree さんの世界観が爆発しているというのは、どちらからでも楽しめますよね。

Gravityfree (djow) 音楽っぽいよね、絵にも抑揚があって。

皆さん 確かに。ちゃんと端から鍵盤でスタートしていて、A メロ B メロがあり、2023 年に描いた部分が大きびみたいですね。➤



Niigo ひろば

活動年表 2024

よこはま西口ローズフェスタ 2024

横浜西口・東口エリア連携イベントとして実施し、みなさまにはフラワーリーやフラワーライブペインティング & ジャズライブ等をお楽しみいただきました。



IoT ゴミ箱 SmaGO の増設

IoT スマートリサイクルボックス「SmaGO (スマゴ)」を Niigo ひろばに続き今年 5 月に CeeU Yokohama 前と相鉄ムービル前の 2 か所に増設しました。



FP TEENS 新入生歓迎会



水辺の活用促進ワーキング① 西口の水辺でやりたい 80 のコト検討開始

行政や街の事業者、自治会、商店会の方々にご参加いただき、昨年度の振り返りと「西口の水辺でやりたい 80 のコト」を考えました。横浜西口の水辺の未来について考える、想いを共有する場となりました。

ヨコハマ西口 TEENS PARTY 2024



PICK UP ↓

サコッシュデザインワークショップ

学校法人岩崎学園の先生と学生と一緒にサコッシュのデザインを考えるワークショップを開催しました。

川遊びワークショップ 横浜西口ハゼ釣り調査

参加者の皆さまと横浜西口の水辺にはどんな生き物がいるのか、釣りをしながら調査をしました。



第3回 こども夢の商店街



横浜平沼高等学校 地域貢献活動

地域貢献活動授業の一環として、高校生たちがゴミ拾いのクリーンアップ活動や、地域の方と一緒に防犯パトロールを行いました。



ヨコハマ西口 ハロウィン 2024



水辺の活用促進ワーキング② 動力船の試乗

幸川仮設浮き桟橋から海に出るルートでの動力船の試乗とワーキングの開催を実施しました。第1回目が出た「西口の水辺でやりたい 80 のコト」をまとめ実現に向けて話し合いました。

ヨコハマイルミネーション 2024

41 回目となる今回は、コンセプトを「ヨコハマイルミナスクエア」とし、横浜駅中央西口駅前広場やみなみ西口エリアや川沿い周辺エリアを彩りました。



水辺の活用促進ワーキング③ 西口の水辺でやりたい 80 のコト決定

今までのまとめとして「西口の水辺でやりたい 80 のコト」を決定しました。2025 年度もこれらを基に水辺の活用を進めていきます。

ヨコニシ会議



地域活性化サポーターで集まり、横浜西口の街の未来について話し合い交流を図りました。

横浜西口防災ワークショップ

一時避難経路を参加者が歩き、横浜市防災センターにて身近に起こりうる「地震と火災」を体験し、身近で手に入る「防災バッグ」の講話を行いました。



FP TEENS 横浜アクションアワード 審査員特別賞受賞



川遊びワークショップ 横浜西口マグネットフィッシング

新田間川周辺にて水中に落ちている金属製のゴミを強力なマグネットで釣り上げ回収する実証実験を行い自転車が 3 台も引き上げられました。



横浜西口防犯ワークショップ

戸部警察様を講師に招き、西口で多い犯罪についての講話をお聞きし、いざという時の対策を学びました。



横浜西口灯篋流し

参加者の方は自分の好きなデザインで灯籠を制作し、帷子川に流した後は回収してお持ち帰りいただきました。



11/13~2/14 イルミネーション期間

PICK UP !!

8/23

岩崎学園の学生がデザインを担当！

サコッシュデザインワークショップ

地域活性化サポーターとして「ヨコニシ使いタイ・助けタイ」の活動を行う皆様に配布する、サコッシュのデザインワークショップを 8 月 23 日（金）に実施しました。横浜駅西口にある、岩崎学園 横浜 f カレッジのファッションライフデザイン学科 1 年生 7 名と先生 1 名（鈴木理恵先生）にご参加いただき、横浜西口エリアマネジメントが普段行っている活動内容をイメージしたアイコンのデザインを作成しました。

「1 年生にとっては初めての産学連携でしたが、横浜に住む学生でもエリマネの事を知らない若者が多いので、エリマネの活動内容を知りながら、楽しくデザインしていました。この先、地域活性化サポーターの方がこのサコッシュを使っている様子を見かけた時、デザインに携わった学生もさらに喜ぶかと思います。」と鈴木先生。



岩崎学園の学生がデザインしたサコッシュ

学生がデザインを通してまちとつながる

岩崎学園でファッションを学ぶ学生にとって、西口は学校の課題でトレンドやお店のレイアウトなどのリサーチで訪れることが多く、行きやすいのは横浜ビブレのようです。西口エリアは今時の情報が入手できるため、放課後の時間を過ごす学生も多いそう。この先、学生にとって遊び場、だった西口が、デザインの表現の場になり、まちと繋がっていくことを期待したいです。



ワークショップ集合写真

12/14・15

大型音楽イベントを開催！

YOKOHAMA WESTSIDE 【C-MAP FES】

横浜西口の音楽イベント「YOKOHAMA WESTSIDE C-MAP FES」が 12 月 14 日と 15 日の 2 日間にわたり、Niigo ひろば & 幸川橋で開催されました。

ベテランの方々とこれから夢を叶えるアーティストがお互いに刺激を受けながらパフォーマンスを行ったり、楽器体験ができるコーナーやペンライト作りワークショップ、さらに横浜西口商店会連合会さんのご協力による模擬店では美味しいご飯もあり、演者も観客も楽しめる賑やかなイベントとなりました。

※【C-MAP】とは、Creative（新たなものを生み出す）に Music、Art、Performance の頭文字を繋ぎ合わせた MAP（地図）を意味しています。



C-MAP FES 開催時の様子

西口は音楽に挑戦するスタート地点

コロナ渦や音楽配信サービスの充実によって、ライブハウスに行かなくても音楽にふれられる今、不特定多数の人に聴いてもらえる場を求めているパフォーマーは多いそうです。西口の音楽ライブでは、大勢の人が活動している場所で演奏できるため、様々な方に聞いてもらえるきっかけになり、アーティスト同士の横のつながりを作ることでもできます。西口音楽ライブでプロデュースを担当する Rip Current Production の松岡さんは、「これから夢を叶えるパフォーマーたちが、西口でのライブを通して観客に喜んでもらえるパフォーマンスの方法を勉強し、西口ライブがより良くなるようにこれからも一緒に考えていきたい。」と語りました。



音楽ライブの様子

横浜西口エリマネニュース

◆ 横浜西口の水辺が盛り上がった 2024 ◆

2024 年は地元商店会や事業者の方も巻き込み、水辺の活用促進ワーキング開催や動力船の試乗、川遊びワークショップなど水辺に関する取り組みを多く行いました。これらを主導しているのが、長らく横浜西口の水辺に関わってきた運営パートナーである KOKOPELLI+（ココペリプラス）さんです。代表の寺田さんは、「KOKOPELLI+としても横浜西口の水辺で長年現場から水辺の魅力を発信し続けてきて、こういった流れができたことは大変喜ばしい。」と語っています。

街の方と意見を交わすことで見えてきた新たな水辺の可能性



KOKOPELLI+さんは水辺を環境や自然の分野として捉えていましたが、まちの方の意見を伺うと世間一般的な捉え方は違った角度であることが改めて分かり、斬新な意見を多くいただいたそうです。また事業者や組織のひとりとして会に出席した人が、組織としての立場ではなくひとりの個人としてどんなことに興味を持っているのかが分かるのは、とてもおもしろかったとのこと。

ワーキングで出てきた「西口の水辺でやりたい 80 のコト」の中で、さっそく実験的に 10 月にハゼ釣り調査、3 月にマグネットフィッシングと灯籠流しを行いました。アイデアを出したからには、まずできることからやってみて、まちのみなさんにも夢物語ではなく実際に具現化できるということを見て実感してほしいと寺田さんは熱い想いを語ってくれました。

今年度の意気込みを伺ったところ、「新しい水辺の未来が開かれるように私たちは現場の立場からサポートを行い、過さしやすい水辺、そしてやりたいことをチャレンジできる水辺に変化できるよう、みなさんに出していただいたアイデアを大切にしながら協力していきたいと思います。」とのこと、今後水辺から西口がどう変化していくのかみなさん楽しみにして下さい！



KOKOPELLI+ 代表の寺田さん

FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチの アートが生まれ変わりました

2018 年に FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチの黒板に「横浜西口の（ちょっとだけ）未来」をチョークアートで描きましたが、今回 6 年ぶりにデザインをアップデートしました。アートを描いてくださったのは、前回と同じアーティスト、島根さんです。前回は西口に新しく建設される建物がメインでしたが、今回はそこから月日が経ち、エリアマネジメントとして積み重ねてきた活動やその過程で生まれた新しい取り組みなどを中心にしており、西口で活動する人々を生き活きと表現しています。



島根さんのインスタはこちら
@mimi_mimi_118

都市模型ウォールも更新しました！

制作には建築学科の学生や FP TEENS（エリマネ高校生チーム）も加わり、エリマネの活動をより伝えやすくするような模型に進化しました。おすすめスポットにピンをつけていき、今後もどんどん更新予定です。

